

2018年9月15日 高木俊介FBより

森川すいめいさん、オープンダイアログ・トレーナーズ・トレーニングコース、実況中継。
ライブ感たっぷりです。

森川めいすい

オープンダイアログ (OD) トレーナーズ・トレーニングコース6日目
ーソーシャルネットワークを基礎におくー

再びフィンランドに来ました。今回を含めて後7回、、続けます。

今回も、トレーニングコースで体験したことをシェアしたいと思います。

※あくまで体験のシェアなので、これが正しいとか間違っているとか、そういう話をしたいわけではありません。

※いただいたコメントは読ませていただいておりますが返信を作る時間がうまく作れなそうです、本当に本当にごめんなさい。いつも学びや勇気をいただけています。ありがとうございます。

さて、2回目、最初の2日間は、ネットワークミーティング (or セラピー) に関する時間。
未来話りのダイアログ (AD) の開発者、トム・アンキルさんと、ODの開発者の一人、ヤーコ・セイクラさんによる2日間です。贅沢だあ。

今回は、体験型の学習が主体でしたが、今回は、二人が話す時間が多かったです。

本人をとりまくソーシャルネットワーク、その人たちと本人を含めてダイアログの時間を作ること。ODやADでは、このネットワークミーティングには、訓練されたファシリテーター (専門家) が2名以上参加し、場をファシリテートしていきます。

この試みによって、本人や、その家族だけで抱えていた問題に、周囲の人の視点が含まれていくようになります。

☆学んだことの一つは、ネットワーク・マップ。

本人をとりまくソーシャルネットワークのカテゴリーをわかりやすくするものでした。

- ・一緒に住んでいる家族
- ・一緒に住んではいない家族
- ・日常的に活発に会っているネットワークメンバー (職場、学校、コンタクトのある人など)
- ・そのほかのネットワークメンバー (友達、近隣の人、趣味活動など)
- ・専門職の人たち

それぞれカテゴライズして、

本人を中心にして、その人との感情的な距離を基準に、本人の周りにそれらの人を描いていきます。描かれた本人の周りの人たちが、本人と感情面で遠ざかっている方向にあるのか、近づいている方向にあるのかというのも → で表したり。

と、言葉で書くとわかりにくいですが、図にしながら描いていくと一目瞭然になります。

このネットワークマップは、いつも変化し続けます。

そして、本人のソーシャルネットワークを明らかにできた後で、本人の抱える困りごと、その困りごとにおいて助けになりうる本人のネットワークにある人たちを、ネットワークミーティングという形で招きます。

ネットワークミーティングを行うのは良さそうですが、さて、どうやって招くか？という課題とどうしたら対話的になるかの課題があります。

☆どうやって招く？

本人の困りごとにおいて、本人との関係性において困っていたり心配していたり、単にかかわりをもっている人たちがいます。

その人たちに、助けを求める、という形で招くのだそうです (Ask for help)。

問題があるから情報をシェアしようとか、役割分担をしようとか、そういう動機ではなく、助けを求める。

それゆえに、集まってくれたときには、来てくれたことに感謝をすることからネットワークミーティングは始まるということでした (トム・アンキルさんたちの場合はかもしれません)。

そして、集まって話し合いをすることになるのですが、その話し合いは、ダイアログ、対話的であります。

☆どうしたら対話的になるのか？というと、

「聴かれるという体験 と 聴くという体験を 創造する ことによって」

とのこと。このことは、本当に大切に、何度も話しておられました。

そして、この体験の創造によって、対話的な間 Space が生まれると。

また、

聴かれること、聴くこと、において、

他者の話の途中でコメントをしてしまう場合には、2つの機会を失うという話も。

- ・その人の声を聴く機会
- ・自分の内なる声を聴く機会

ネットワークミーティングは、1回集まればそれで解決できるというものではないようです。その過程があるとも。

オープンダイアログの7つの原則の一つ「Tolerance of Uncertainty(不確実なことへの耐性)」は、このネットワークの中が変化していくことにおいても、大事だとか。

すぐに答えに飛びついたり、強い声に従ったり、そういうことをせずに、じっくりと、ペースを守りながら。

そのネットワークは、次のような過程を経るそうです。

- 1・困難に関する同族の意識
- 2・自分たちが無力だと感じることのシェアや感情をシェアしていく過程
- 3・結集していく過程（ストレスフルな過程）
- 4・☆様々な視座が出てくる過程
- 5・ブレイクスルー

特に☆の部分を強調していました。

様々な視座が、ネットワークにある人たちから出てくることで、様々なものが見えてくるようになる。

このことが、自然と、場をファシリテートする専門家がいなくても起こるようになると、困難への対応は、もはや専門家を必要としなくなる、という考え方

オープンダイアログの考え方の基礎に、ソーシャルネットワーク、があるということでした。